

入札公告

す。よる一般競争入札に付し、次回の総合評価落札方を決定する。

令和6年5月24日

國立研究開発法人水産研究所・教育機構
総務部長 佐藤匡延

1 . 調 達 內 容

- | | |
|--------------|--|
| (1) 調達件名及び数量 | 「日本海ベニズワイ資源生態調査」に係る用船 一式 |
| (2) 調達仕様 | 入札説明書による。 |
| (3) 履行期間 | 自) 令和6年8月21日
至) 令和6年9月11日 |
| (4) 履行場所 | 入札説明書による。 |
| (5) 入札方法 | 入札額は、該当者免のことはた当(額札か額する金額までに額金入る金する金)。額金数、あ望載札と金た端でで希記入こたしのの者約にるれ算そる業契書 |

2. 競争参加資格

3. 入札説明書等の交付方法

4. 入札説明会の日時及び場所等

- 月入。者公
6はと領て
年スニ受に
6レう書ジ
和ド行明一
令アを説ペ
、(疑札ム
はル質入一。
に一てはホるし
合メに答のえ生
場にス回構代發
るてク、機にが
ああツめ當会疑
が①アトニ明質
疑。フまも説ニ。
質3はりと札降る
し記又取と入以す
内るれ質
関上)をうり日応
にに載疑行よ該対質
等で記質てに當ニ、
別るはる
書まにのしと、
様し識す又あ
様日書で対ニお同
仕0明まにるな、
た人侵伏と
2説日員す
け個ををこ

5. 提案書の提出方法

入札者は入札説明書に示す提案書を、下記6.に定める受領期限までに提出場所に正1部を提出すること。

6 . 入札の日時及び場所等

7. 提案書の審査

入札者が提出した提案書は、評価項目一覧（要求事項）に記載している評価基準に基づき審査し、基礎点を決める。評価された結果、満足する。評価され満足しない場合は、評価項目については、基礎点を減らす。

8 . そ の 他

9. 契約に係る情報の公表

② 直近の事業年度における総売上高又は事業収入及び当機構との間の取引高

- (4) 公表日
契約締結日の翌日から起算して原則として72日以内（4月に締結した契約について
は原則として93日以内）
- (5) その他
当機構は一ムペ一ジ（契約に關する情報を公表する情報）に「さ表力もつて同意されたものとみなさせていただきますので、ご了知願います。

10. 公的研究費の不正防止にかかる「誓約書」の提出について

当機構では、国より示された「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」（平成19年2月15日文部科学大臣決定）に沿って、公的研究費の契約等における不正防止の取り組みを行つております。取り組みのひとつとして、「国立研究開発法人水産研究・教育機構との契約等にあたつての注意事項」（URL：https://www.fra.go.jp/home/keiyaku/files/pledge_requestnote_contract2.pdf）をご理解いただき、一定金額以上の契約に際して、当該注意事項を遵守する旨の「誓約書」の提出をお願いしています。

公的研究費の不正防止関係書類（①公的研究費の不正防止にかかる「誓約書」の提出について、②国立研究開発法人水産研究・教育機構との契約等にあたつての注意事項、③誓約書）は、入札説明書に添付しますので、契約相手方となつた場合は、誓約書の提出をお願いします。

なお、当機構の本部、研究所、開発調査センター、水産大学校いずれか1箇所に1回提出していただければ、当機構内の次回以降の契約では再提出する必要はありません。

用 船 仕 様 書

1. 調 査 名　　日本海ベニズワイ資源生態調査

2. 調査目的・概要

我が国周辺水域における水産資源の回復と持続的利用を図るために必要な科学的基礎となる主要魚種の資源評価の的確な実施に資する資源評価調査の一環として、日本海の主漁場におけるベニズワイの分布、生態に関する基礎的知見を得ることを目的とする。

3. 調 査 内 容

①桁網曳きによるサンプル採集　(調査点 約 60 点)

- ・水深 500～2000m を対象とし、予定定点付近を魚探により海底状況を観察し、曳網に適したポイントを確認した上で、桁網を用いて、着底後の船速約 2 ノット 15 分曳き（但し、障害物等が認められた場合は適宜短縮）で桁網によるサンプル採集を行う。また、投網中の網水深を船上でモニターするために、桁網にネットレコーダー発信器を装着する。トロールワインチへの桁網の着脱及び操作等、桁網へのネットレコーダー発信器の装着は乗組員が行う。
- ・本調査で使用する桁網（幅 8.2m、高さ 1.0m、奥行 2.0m、網全長 30.7m、重量 1150kg）ならびにネットレコーダー発信器（古野電気製 CN-2220）は当機構が用意する。

②メモリー式水温深度計による観測　(調査点 約 60 点)

- ・メモリー式水温深度計を①の桁網に装着し、水温と深度を観測する。機器取付は乗組員が行い、取付前の初期設定ならびに取得したデータの磁気媒体への収録は調査員が行う。
- ・本調査で使用するメモリー式水温深度計（JFE アドバンテック製 COMPACT-TD 深海レンジ）は当機構が用意する。

4. 調査必要装備（本調査を実施可能な機能を有し、用船期間中に使用可能な状態（精密機器の校正等含む）で船舶に整備されていること。）

①魚群探知機 1 台

- ・上記 3. ①調査用

②トロールワインチ 1 台

- ・上記 3. ①調査用

③ネット巻き上げ機 1 台

- ・上記 3. ①調査用

④ネットレコーダー受波器 1 式

- ・上記 3. ①調査用（当機構が用意するネットレコーダー発信器を受信可能であること。）

⑤冷凍設備 約 16 m³

・調査サンプルを保存するため、冷凍温度-25°C以下の温度設定可能及び上記体積を確保した冷凍設備を有すること。なお、冷却システム等は問わないものとする。

5. 総 ト ン 数 600トン以下

6. 乗船調査員数（同時期に乗船する最大調査員数） 6名

7. 用 船 期 間 令和6年8月21日～令和6年9月11日

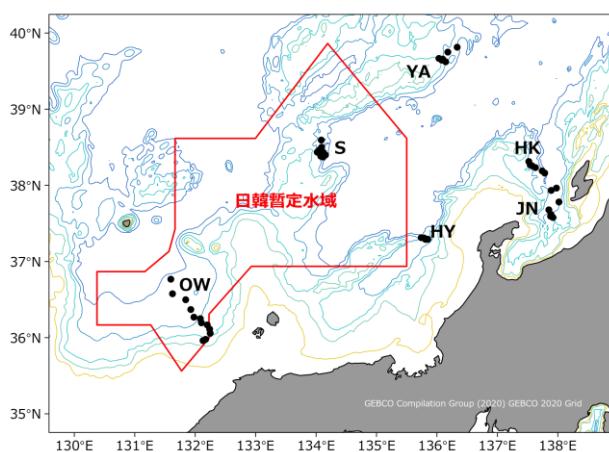
8. 運 航 予 定 6. 8. 21 用船開始、調査機材等搬入、桁網積み込み
6. 8. 22 香住港（用船開始港）出港
6. 8. 28 金沢港（寄港地港）入港
6. 8. 29 金沢港（寄港地港）出港
6. 9. 4 未定港（寄港地港）入港
6. 9. 5 未定港（寄港地港）出港
6. 9. 10 新潟港（用船解除港）入港
6. 9. 11 調査機材等搬出、用船解除、燃油積込

※調査の進行により寄港地港および寄港日は変更になる場合がある。

※用船開始港、寄港地港については調査に支障の無い範囲内で請負業者と協議の上、変更することができるものとする。

9. 調 査 海 域 日本海

10. 調 査 海 域 図



※調査予定点を黒丸で示す。資源状況や海況、漁具の敷設状況により多少変更あり。

11. 担 当 研 究 所 水産資源研究所

12. そ の 他

①詳細については担当職員の指示に従うこと。

- ②運航にあたっては、第三者所有漁具等への事故が発生しないよう細心の注意を払うものとする。なお、運航に関する事項については、本仕様書に定めるもののほか別添「漁業調査船に関する用船仕様書」によるものとする。
- ③用船契約期間中に消費した燃油は当機構が別途供給するものとする。